

ブウツ おかアさん……  
ブウツのおかアさん まあ、ブウツ……

ふたり、だきあってよろこぶ。

ブウツのおかアさん (聞)わたしは、まあ、どんなにおまえのかえりを待ったかしのれないよ。——きょうはかえるか、あしたはかえるかと、毎日わたしは、窓のそばにすわって、外ばかりみていたんだよ——そうでもない、もしか、霜しもや氷のなかにとじこめられて、とちゅうでかえれなくなっているんじゃないか？——雪の上に倒れてそのまんまうずまってしまったんじゃないやあるまいか？——わたしはどんなに心配したか知れないよ。——でも、そう思ってもいくらそう思っても心配してもわたしには探しに行くことができないだろう。(眼をふく)——わたし、もう、どうしていいかわからなくなってしまった。——ゆうべも、おとこの晩も、そのまえの晩も、わたしはおまえの夢をみたんだよ。……

ブウツ おかアさん、ごめんさい。ごめんさい。——ぼく、もっと早くかえってこようと思っただんです。けれど、どうしても、ぼく、これより早くかえってこれれなかつたんです。——これでも、ぼく、いっしょうけんめいに早くかえってきたんです。——ぼくでも、ずいぶん心配しま

したよ。——ひとりで、おかアさん、きつときびしがっているだろう。——たべるものがなくて、おかアさん、お腹がすきやアしないか？……

ブウツのおかアさん おまえがいけないもんだから、御近所の方たちが、かわり番にいろんなものをもってきてくれた。——だから、わたしは、ちっともこまらなかつた。——それよりも、おまえ、知らないところへひとりでいっておこまりだつたらう？——つらいことや悲しいことがいろいろありだつたらう？

ブウツ ええ、いろんなことがありました。——でも、ぼく、夢中でしたから……

ブウツのおかアさん そうして、うまく、北風にあえたかい？

ブウツ (いさんで) あえました。——おかアさん、あえましたよ。……

ブウツのおかアさん (思わずよろこんで) あえたかい、まあ……

ブウツ ええ、あえました。——あえました。……

ブウツのおかアさん そうして北風はなんといいました？

ブウツ 気の毒だといいました。——うっかり気がつかずにやっただといいました。——そうして飛ばしたお米のかわりにこれを。——このティブルかけをくれました。(かくしからティブルかけを出す)

ブウツのおかアさん (ふしぎそうに) ティブルかけを……？